

群馬県立高崎高等特別支援学校 学校評価一覧表(令和7年度版)

(様式)

| 羅 針 盤 | | | 方 策 | 点検・評価 | | 達成度 | 達成状況の分析 | 学校関係者評価 | 次年度の課題 | |
|-------------------------------------|---|--|---------|---|---|-----|---------|---|---|--|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 自己評価 | 外部アンケート等 | 総合 | | | | |
| I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。 | 1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。 | 本校Webページで「学校の様子がよく分かる」と保護者の90%以上が答えている。 | 教務 | ○「学校ブログ」では日頃の学校生活について情報発信し、本校の教育活動への理解・周知を図る。また、Webページが閲覧しやすく、わかりやすい環境設定になるように工夫・改善を図る。 | A | A | A | ・90.9%の保護者から肯定的な回答を得た。「ブログの更新が頻繁にあり、とても良く伝わってくるので良い」という一方で、「普段の授業の様子」や「クラブ活動」、「細かな部分」、等がよくわからないという一部の意見があった。保護者のニーズに立った作成も検討する必要がある。 | ・教育活動の発信については、肯定的な意見の多さからその成果が顕著に表れている。今後も多様な形態で発信機会を確保することが望まれる。 ・地域連携の強化策として、校内での外部向け販売会の定期開催を提案したい。地域住民の理解促進を図るだけでなく、生徒の能力や可能性を社会に示す好機となるはずである。 | ・学校行事だけでなく、各学年の活動や普段の授業、クラブ活動、等も広く記事として取り上げて教育活動全体の様子がわかるように心がけてブログを作成する。 |
| | | 管内の中学校・特別支援学校中学部の生徒、保護者、教職員に対して50回以上の説明の機会を設ける。 | | | A | A | A | ・学校見学会2回、中学生作業体験会2回、中学校職員見学会1回、中学校訪問を26校、個別対応の見学会22回を実施した。中学校訪問は高崎市等を中心に訪問したため、訪問数は減少した。しかし、高校在籍生徒や県外校の生徒からも個別見学があったことから継続した広報の役割と効果は大きいと考えられる。 | ・矢中地区公民館での展示は地域理解に繋がるため、今後も継続を期待する。 ・学校訪問数や作業体験会などの新たな試みが功を奏し、志願者数も大幅に増加した。これらの活動は、本校の教育に対する関心を高める上で極めて有効であり、今後も積極的な情報発信と交流機会の創出に努めていただきたい。 | ・見学会のほかに中3生の作業体験会の機会を提供できたことは、入学者選抜の大幅な出願者数増加につながったと考えられる。学科との連携を意識して、販売会や文化祭等についても広報できる機会として活用していく。また、個別見学の案内が不定期のため、各月にまとめて効率よく実施できるように年間予定に位置づけて実施する。 |
| | 2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。 | 「個別の教育支援計画が有効に利用されている」と保護者・教員の95%以上が答えている。 | 学習指導 | ○「個別の教育支援計画」と生徒指導や進路指導。そして日々の生活指導などとの関連について学校全体で理解を共通にし、様々な面談や担当者会議等の場面でも積極的に生かすようにしていく。 | A | A | A | ・内部外部ともに95.0%以上の肯定的評価となり、課題と捉えていた理解の共通化は進んでいると思われる。特に、保護者からは「Aはい」だけで60.6%の高評価を得ることができた。 | ・保護者の肯定的評価から、A評価は妥当である。今後は社会や家庭環境の変化に応じた新たな取り組みが求められる。教育効果を最大化するためには、保護者と教員が目標や支援方法、役割分担を共通理解することが不可欠であり、引き続き連携体制の強化を図っていくことが望ましい。 | ・今後も、分かりやすく丁寧な説明を心がけるとともに、組織的・協力的な指導や支援につながるよう「個別の教育支援計画」の利活用を進めていく。 |
| II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。 | 3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。 | 支援を行った地域の高等学校等から、90%以上の満足度を得ている。 | コーディネータ | ○支援要請を受け速やかに日程調整を行い、相談内容や対象校の実態を踏まえた最適な支援スタイルに対応する。 ○共有した情報や具体的な支援方法をまとめた「相談記録」を作成し、適切な指導ができるよう対象校へ提供する。 | A | A | A | ・依頼校からの全ての要請に対応し、学校の希望に合わせて日程調整をし、訪問相談を行った。すべてのケースで「相談記録」を作成し、実施校から90%以上の満足度を得ることができた。 | ・実施校からの割以上の高い満足度を得ており、地域のセンター的機能としての役割を十分に果たしている。今後は各機関との連携を深めつつ、支援要請が集中する時期でも迅速に対応できる体制整備が不可欠だ。記録の適切性や活用状況を定期的に確認し、更なる機能強化を期待したい。 | ・相談記録をその後の支援に役立ててもらうため、相談後のフォローや確認を、時期を決めて行う。 |
| | | 情報提供の機会を設定し、参加者の90%以上から満足を得ている。 | | | ○高等学校等のニーズの把握に努め、「サポート通信」の発行、「個別相談会」「特別支援教育推進研修会」「学校見学会」の開催、などにより情報提供を行う。 | A | B | B | ・「サポート通信」を月1回発行を行うことができた。校内で通信を回覧して活用しているという報告があった。 ・研修会の開催は行えなかった。 | ・「サポート通信」は個別支援や各校の参考として好評を博し、センター的機能の役割を果たしている。今後は高校側のニーズをよりの確に把握し、それに即した情報提供や研修会を開催することが課題だ。現場の期待に応える更なる支援体制の充実に努めて欲しい。 |
| III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。 | 4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。 | 「『個別の指導計画』に基づいた、きめ細かな指導・支援が行われている」と保護者・教員の90%以上が答えている。 | 学習指導 | ○「個別の指導計画」と「年間指導計画」との整合性を図るとともに、個に応じた教育課程の編成と授業実践への具体化について組織的な改善を図る。 | A | A | A | 95.5%の保護者から肯定的な回答を得た。前年度からの大きな変化はないものの、数値目標に達することができた。 | ・厚い信頼を得ているA評価は妥当。今後は教員の負担に配慮しつつ、全体指導と個別支援を両立する効率的な運用が求められる。現状の取組を継続しながらも、生徒一人ひとりの特性に応じた授業づくりに一層の時間をかけ、支援の更なる充実に努めていただきたい。 | ・指導計画および学習計画の改善を組織的に進めるため、生徒の特性及び実態の深い理解に基づいて、柔軟な教育課程の具体化を図っていきたいと考える。 |
| | | いじめの防止に向けた本校の取り組みについて保護者の95%以上が満足している。 | 生徒指導 | ○いじめの未然防止、早期発見、事案への迅速な対応に努め、生徒や保護者が安心して学校生活を送れるよう、組織対応の実効性のための職員研修を充実し、いじめ防止指導の徹底を図る。 | B | B | B | ・ホームページや保護者会で説明はしているが、学校評価アンケート結果から保護者の理解は目標に達していない。 | ・いじめの未然防止や早期発見に向けた、きめ細かな対応を評価する。昨今の複雑な家庭環境や児童生徒の状況を鑑みると、家庭の理解と地域の協力は不可欠だ。今後は情報発信の方法を工夫し、保護者への説明内容や手順を改めて検討することで、より強固な連携体制の構築に努めていただきたい。 | ・職員研修において組織的で迅速な対応を目指して共通理解を図るとともに、保護者への周知も適宜実施し、生徒及び保護者が安心できる学校づくりに努める。 |
| | 5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。 | 年間で一人2回以上の授業参観と授業検討会への参加をし、保護者・教員の95%以上が肯定的評価をしている。 | 学習指導 | ○全教職員参加の校内研修だけでなく、授業検討や教科会などの担当者ごとの研修機会を学習指導部主導で企画・実施する。 | B | A | A | ・98.5%の保護者から肯定的な回答を得た。一方で、校内では肯定的な評価は90%に満たないという結果となり、記述には自己内省の要素が多い。 | ・研修のための研修に陥らず、日頃の生徒観察に基づき「何を習得させるか」を重視した授業改善を求める。実社会で役立つ力を育むための実効性ある研修を実施し、生徒一人ひとりが有用な資質・能力を身に付けられる教育活動の更なる充実に期待したい。 | ・生徒の実態等の多様化に対応しうる教材研究や特別支援に関わる専門性の充実に望む意見が多い。研修ニーズを精査して、指導や授業の改善に向けた効率的・実践的な取組を検討していきたい。 |
| IV 健康や安全の確保に努めていますか。 | 6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。 | 生徒一人一人の健康上の配慮や対応、感染症対策について保護者の95%以上が満足している。 | 保健保安 | ○日々、生徒の健康状態をきめ細かく把握し、保護者や医師、関係機関と連携した健康管理に努める。 ○感染症についての理解を深め、生徒一人一人が感染症対策を取れるように徹底する。 | B | B | B | ・感染症対策について明確な基準を設けていないことも要因のため、満足度が目標に達していない。 ・養護教諭と学担が連携を取り、生徒の健康状態の情報交換を密にしていく。 | ・感染症対策は、教職員間の共有に加え家庭との連携が不可欠だ。健康管理の重要性を生徒・保護者に周知し、将来の就労を見据えた健康維持の意義も伝える必要がある。養護教諭のみならず、組織全体で健康教育の充実に努めていただきたい。 | ・感染症対策については、特にインフルエンザ流行時期の手洗いやマスク着用の徹底など、今後とも継続していく必要がある。 ・養護教諭に一任するだけでなく、生徒の健康に関しては、教職員間で情報を共有する必要があるため、徹底に向けて工夫や改善を行う。 |
| | | 7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。 | | | 火災・地震、不審者など、緊急時の対応や避難経路について生徒の90%以上が理解している。 | A | A | A | ・火災や地震に対する避難訓練において、消防署や防災業者と連携した実践的な訓練を実施し、緊急時の対応が概ね理解できているとの評価である。 | ・昨今の環境変化を鑑み、想定外の事態に備えた実践的な安全管理が不可欠だ。予告なしの避難訓練を継続し、マニュアルも常に最新の情報へ更新していただきたい。また、不審者対策訓練の実施も有用である。多様な場面を想定した訓練を通じ、学校全体の危機管理能力を一層高めることを期待する。 |
| V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。 | 8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。 | 「学校は生徒の将来の自立に向けて必要な内容を指導している」と保護者・教職員の80%以上が答えている | 進路指導 | ○進路指導年間計画、キャリア教育全体計画、キャリア教育年間計画に基づいて、個々の生徒に合わせた指導を行う。学習の成果をキャリアパスポートに綴じ、面談等で保護者との情報共有に活用する。 | A | A | A | ・保護者の97%から肯定的な回答を得た。自由記述欄にも相談のしやすさや、将来を見据えた指導内容について書かれており、必要な情報共有を行えたことが高評価につながったと思われる。 | ・キャリアパスポートは小中学校や保護者との連携強化により、将来を見据えた指導が期待できる。一方で、限られた時間の中で教育効果を高めるには、生徒・教職員の負担軽減を図りつつ、その有用性を最大限に引き出すための運用改善を検討する必要がある。 | ・進路指導年間計画等に基づいて、個々の生徒に合わせた指導を継続して行っていくとともに、生徒の学習状況をキャリアパスポートも活用しながら保護者と十分に共有していく。 |
| | | 9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。 | | | 保護者・関係機関を招いた情報提供の場を年間5回以上開催し、保護者・関係機関の90%以上が満足している。 | A | A | A | ・保護者の92.4%から肯定的な回答を得た。昨年度と違う企業や福祉サービス事業所に見学を受け入れていただいたり情報提供していただいたことが高評価につながったと考える。 | ・保護者の92.4%から得た高い肯定評価は、新規の実習先開拓等の成果と言える。企業が保護者へ直接説明する機会を設けることは、卒業後の不安解消に極めて有効であり、今後も継続を期待する。 |